

まちづくり重点戦略の概要(素案)

【定義】

- 上越市のまちづくりの課題に対応し、将来都市像を実現するために、特に戦略的・優先的に取り組むべき分野横断的な政策

【役割】

- 市の目玉となる事業を示す
- 縦割り行政を補完し、より効果的・効率的な政策実現のため、分野横断的な事業の実施順序やタイミングの一致を図る(時間軸の統制)

【検討上の留意点】

- 効力の担保
論理的な戦略・プロジェクトの作成、関係課間で“ギブ&テイク”となる関係の構築
- 実現性の担保
該当事業を優先的かつ計画通りに実施できる権限の付与、実施責任の明確化

上越市の歴史・特性や上越市を取り巻く環境、直面する課題や将来都市像などを考慮し、以下の5つの戦略を選定。

交流(人との出会い、つながり)をつくる

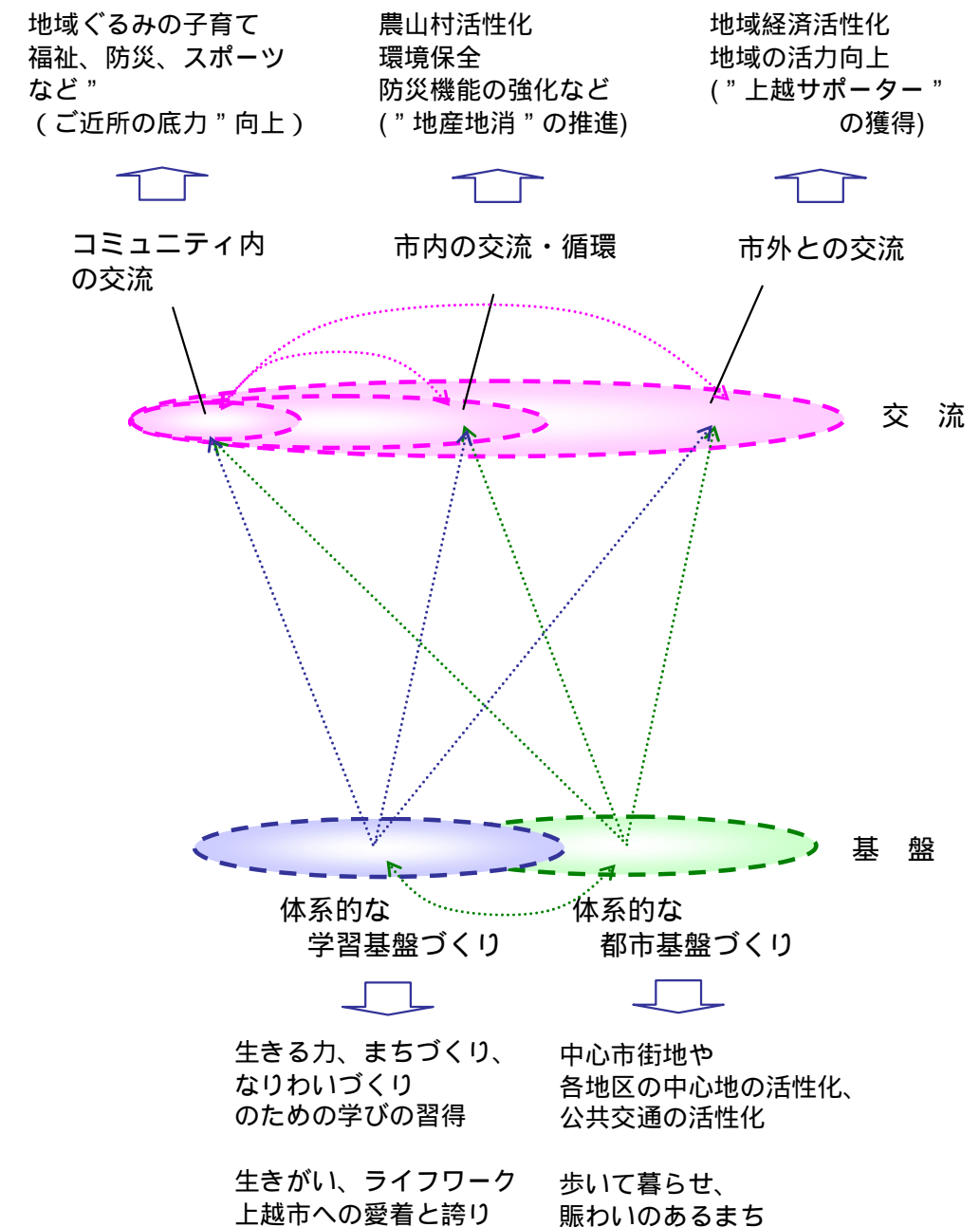
人や地域資源の持つ多様性、人と人が出会うことにより生まれるパワーを活かしたまちづくりを進める。

- コミュニティ内の交流(“ご近所の底力”の向上)
地域ぐるみの子育て、福祉、防災、スポーツなど
- 市内の交流・循環(“地産地消”の推進)
農山村活性化や環境保全・防災機能の強化など
- 市外との交流(“上越サポーター”の獲得)
地域の活力向上や地域経済活性化

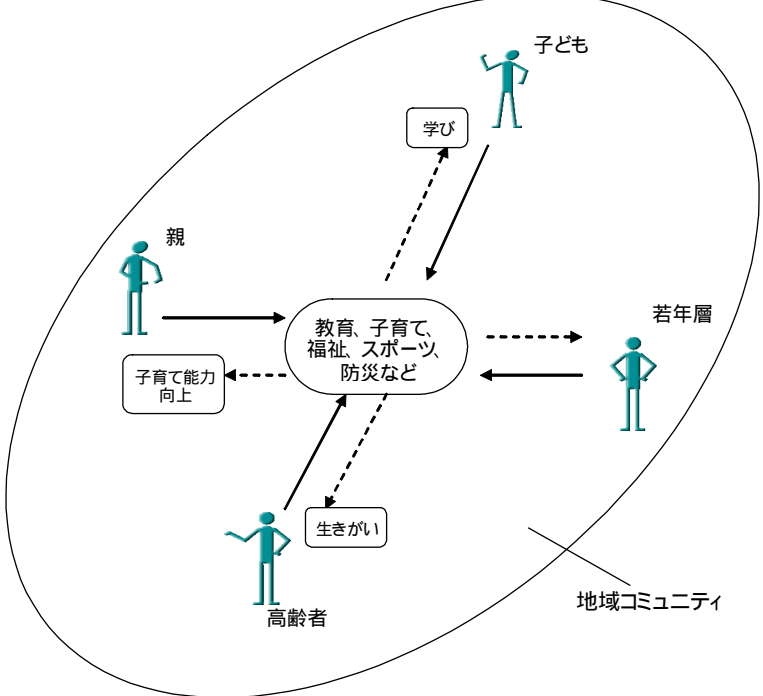
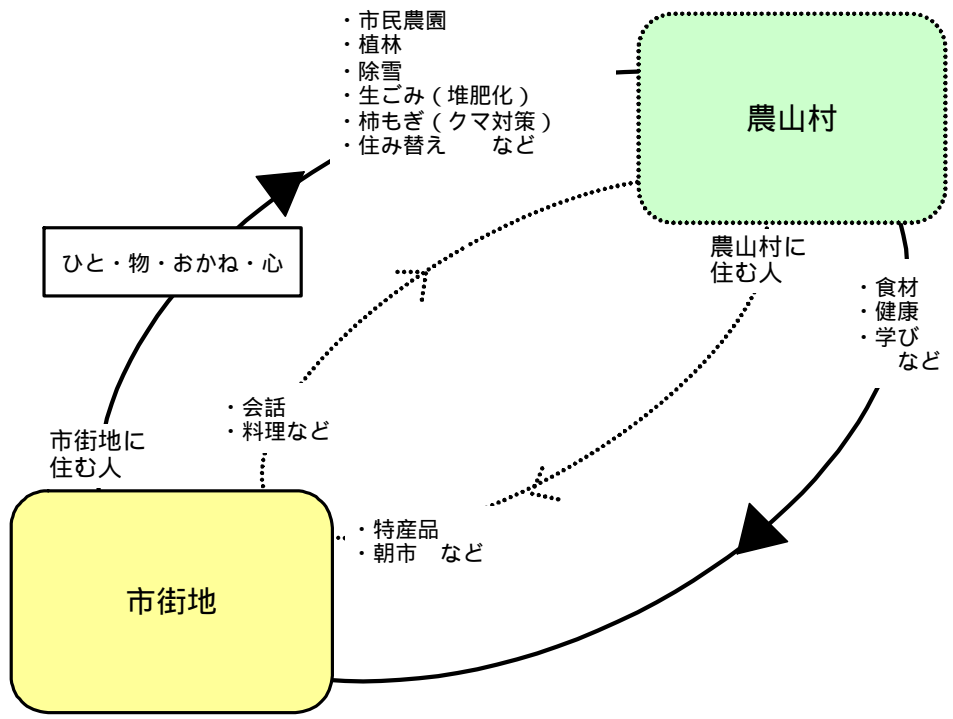
基盤をつくる

中長期的な視点から足腰の強い上越市を構築するため、地域資源を活用した学習の基盤と都市基盤の体系化(強化)を図り、地域全体が“テーマパーク”のようなイメージで描かれるよう構築する。

- 体系的な学習基盤づくり(“上越学”の確立)
生きる力、まちづくり、なりわいづくりのための学びの習得
生きがいとライフワーク、上越市への愛着と誇りを生み出す
- 体系的な都市基盤づくり(“コンパクトなまちづくり”の推進)
中心市街地や各区の中心地の活性化、公共交通の活性化
歩いて暮らせ、賑わいのあるまちづくり
戦略名はすべて仮称。各戦略の概要は次のページに示す。



各戦略は相互に関連をもっており、相乗効果をもたらす。これらを切り口として重点プロジェクトを検討する。最終的には、上越型ライフスタイルの構築を目指す。

<p>重点戦略名（仮称） 1. コミュニティ内の交流をつくる （“ご近所の底力”の向上）</p>	<p>キーワード（ 1 ） 多世代交流、コミュニティケア、 ソーシャルキャピタル</p>	<p>重点戦略名（仮称） 2. 市内の交流・循環をつくる （“地産地消”の推進）</p>	<p>キーワード 市街地と農山村の交流、 市内の一体性、半農半X</p>
<p>概要 地域コミュニティの多様な人々が集い、ともに刺激を受けることによって、それぞれが抱える子育てや生きがい探しなどの問題解決につながるような場を創出する。 また、地域の課題を地域ぐるみで考え、解決していくようなきっかけやしくみをつくる。</p> <p>取組の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> ファミリーサポート事業 福祉機能と子育て機能の融合 校庭と公園の融合 安全・安心パトロール 地域学習・活動アドバイザー がんばる地域、地域発の事業提案への支援（構造改革特区や地域再生事業のコミュニティ版） <p>効果（ 2 ）</p> <p>子育て環境の向上（担い手の確保、学校以外での知識の習得） 高齢者等の生きがいづくり 災害や犯罪に打ち勝つ地域力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心、公共心の醸成 共助の拡大による公助の減少 <p>（最終的に）目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの中で、多様な人々との出会いが増え、地域の問題解決に向けて1人1人の持つ能力が発揮され、そのことを生きがいに感じる市民が増加する。 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人・民間・行政よりも、地域コミュニティで取り組んだ方がメリットの大きいテーマについて優先的に取り組む。 		<p>概要 教育、福祉、地域経済、環境保全などの観点から農山村部の価値を積極的に引き出し、農山村部と市街地がそれぞれを支えあい、高めあう関係となるような市内交流を進め、自然や農に親しむ魅力的なライフスタイルを創出する。</p> <p>取組の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝市、特産品開発、6次産業化などによる地産地消（商） 生ごみの堆肥化・飼料化 市民農園 棚田・植林・除雪サポーター クマ対策を兼ねた柿もぎツアー <p>効果</p> <p>市街地と農山村がもつ機能の相互理解 地域内の産業連関強化による地域経済活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山間地の集落や農地を支える担い手確保 里山の手入れによる防災機能等の向上 物質的な循環を強めることによる環境負荷の削減 <p>（最終的に）目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人でも多くの市民が農山村活性化の全市的な意義を見出し、「農山村」対「市街地」の構図を解消する。 自然体験や農作業に関わる住民が増加する。 	
<p>全体イメージ図</p> 		<p>全体イメージ図</p> 	

1 重点戦略の内容を端的に示す他の表現方法

2 はプロジェクトの主要目的 ・は結果として達成される目的であり、主目的とはしない

重点戦略名（仮称） 3. 市外との交流をつくる （“上越サポーター”の獲得）	キーワード 4つの人口（情報交流・交流・二地域居住・定住）、U I Jターン	重点戦略名（仮称） 4. 体系的な学習基盤をつくる （“上越学”、“上越の楽校”の構築）	キーワード 生涯学習、地域学、まちじゅう博物館（地域まるごとテーマパーク）、エコミュージアム
---	--	---	--

概要
 上越市の訪問者が他の訪問者や市民と出会うきっかけを創出し、その出会いが上越への印象を深め、さらなる関係へと発展するような誠意あるおもてなしを行う。
 対象者は、観光客にとどまらず学生やサラリーマン、帰省客などの多様な訪問者を想定し、情報交流・交流・二地域居住・定住の連携や、周辺都市の連携などを視野に入れた取組を進める。

取組の一例

- 都市部の学生を対象とした田舎体験 ・ 就農希望者向けの農業塾
- 都市部の大学生、市内大学生と地域住民の交流
- 雪をテーマにしたイベント ・ 新規定住支援

効果
 まちづくりの支援者獲得（知恵・労力の源、経済的支援）
 地域の活力向上（元気の源） ・ 外貨獲得

（最終的に）目指す姿

- 上越のことを好きな上越ファン、上越のまちづくりを情報・労力・経済的な面から支援してくれる人々（上越サポーター）、交流・二地域居住・定住人口が増加する。
- 交流の通年化により、観光・交流関連産業が活性化する。

留意点

- あくまでも多様な人口の獲得を目指すものであり、定住人口の拡大に固執はしない。
- 外貨獲得は満足度の対価であり、継続的な交流が図られること（リピーター化）に力点をおく。

概要
 上越市内の有形・無形の資源を活用し、食育、環境教育といった生きる力を育む学習、上越市の抱える課題や魅力について学ぶまちづくり学習、発想力や専門性を強化するなりわいを生み出す学習などを、気軽に楽しく学べる“カリキュラム”づくりやテーマ設定を行う。

取組の一例

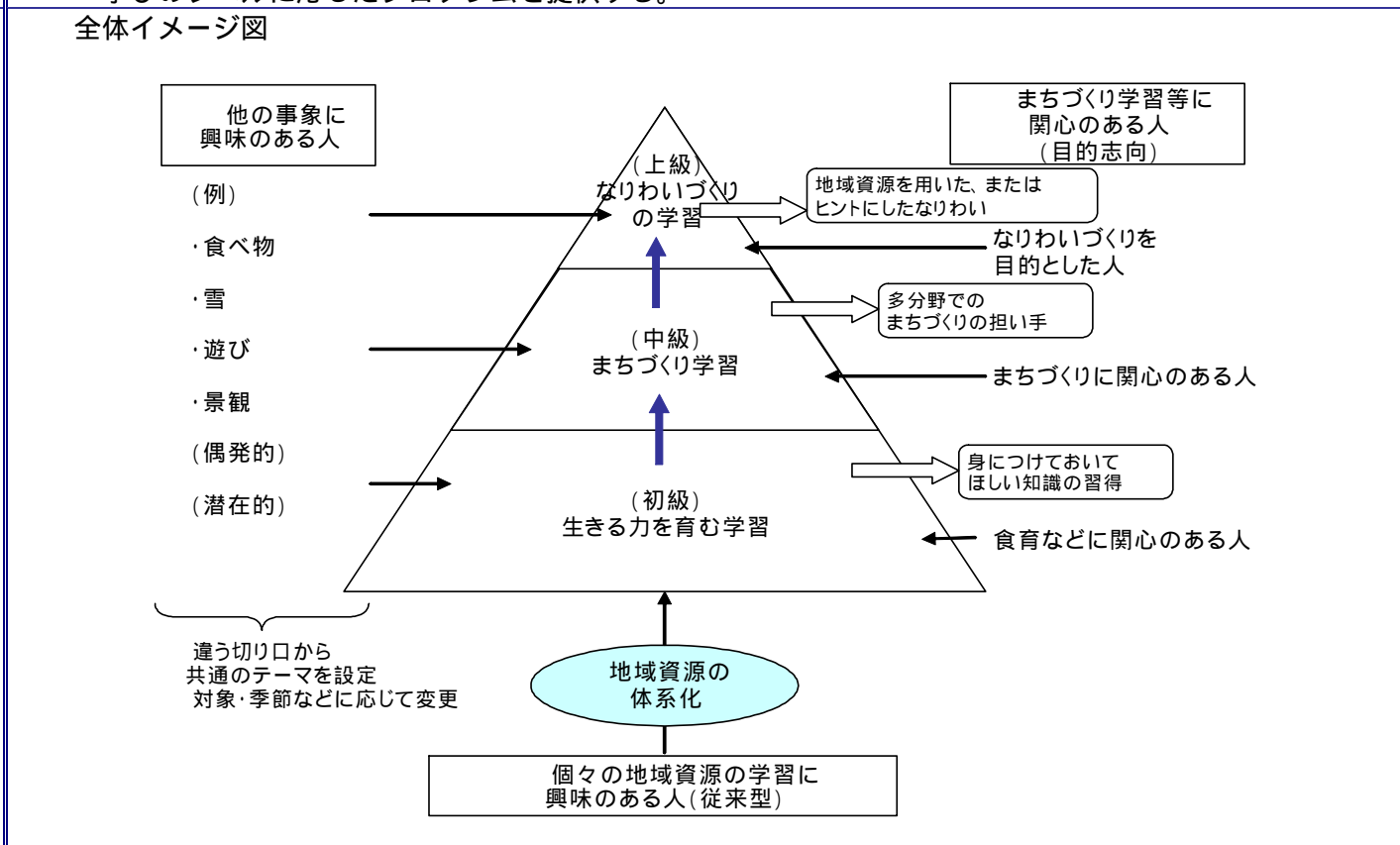
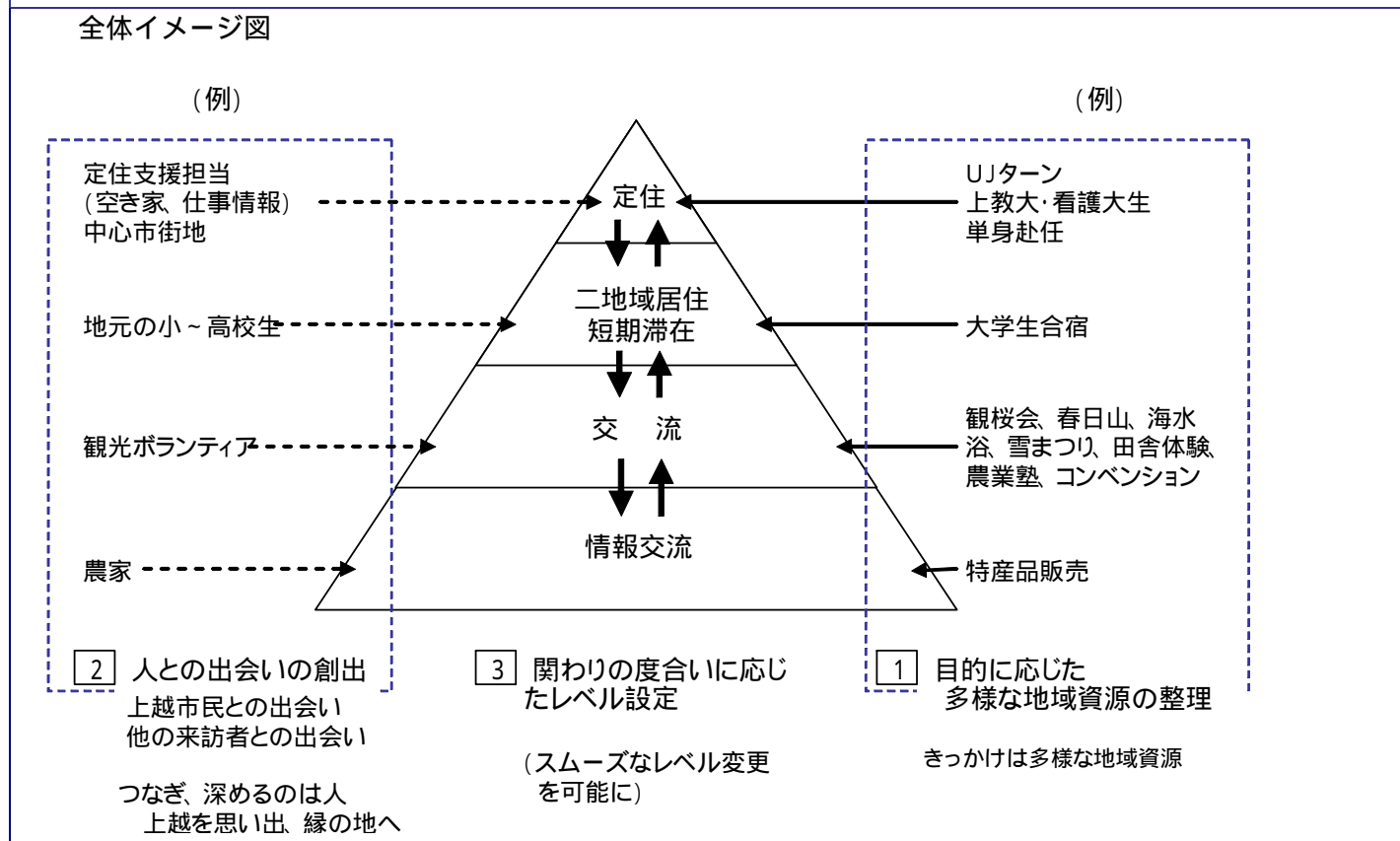
- 地域資源を活かした子どもたちの学習の場づくり
- 雪国文化、海洋汚染等、上越固有のテーマに基づく展示（同時期に市内の様々なポイントで実施）
- 景観コンテスト（潜在的な学習） ・ 官学連携による学習プログラムの作成

効果
 地域文化の再認識
 生きる力の習得
 まちづくりを担う能力を有する人材の増加
 生きがいづくり（学びは福祉）
 交流促進

（最終的に）目指す姿
 1人でも多くの市民が、地域資源との関わりを通じて地元への愛着と誇りをもつとともに、これからの時代を生きていくために必要な力やライフワークを習得する。

留意点

- 特に導入部分においては、興味を誘うようなテーマ設定や、心理学的アプローチを考慮したさりげない設定などにより、学習の対象の幅を広げる。
- 学びのレベルに応じたプログラムを提供する。



重点戦略名（仮称） 5. 体系的な都市基盤をつくる （“コンパクトなまちづくり”の推進）	キーワード テーマのあるまちづくり、コンパクトタウン（分散集中型）、中心市街地活性化、公共交通活性化
---	--

概要

市内各地区に何らかのテーマをもたせ、地域拠点を中心に歩いて移動できる範囲内にテーマに則った空間を創出する。

それらの拠点を結んだ利便性の高い公共交通をまちの骨格と位置づけ、市内を円滑に移動できるしくみを構築する。

取組の一例

- ・ 地域の顔となる求心力のある空間整備
- ・ 歩行空間の確保
- ・ 鉄道・バスの利便性向上
- ・ 地域拠点と交通拠点の融合（さとの駅整備）
- ・ まちなか居住促進

効果

都市間競争に打ち勝つための、各地区の個性の追求と市全体の魅力向上

各地区の賑わいの場（新しい公共空間）の創出

来訪者や市内の交通弱者の足の確保による交流促進

- ・ 運動量の増加による生活習慣病予防
- ・ まち歩き促進による地域発見の促進
- ・ 自動車利用の減少による環境負荷の削減
- ・ 効果的な防災や減災と災害時対応の円滑化
- ・ 都市内分権に基づくまちづくりの拠点づくり
- ・ 行政の経費削減

（最終的に）目指す姿

- ・ 「地区といえば」と言えるような個性が育まれる。
- ・ 公共交通の利便性と利用率がマイカーと共存可能な状態まで向上し、歩行者の密度が高い賑わいのある空間が創出される。

留意点

- ・ マイカー社会を否定するものではない。マイカー中心社会の中で、歩くことや公共交通を利用することの効用を最大限発揮することが目的。

全体イメージ図

